第8回医学図書館員基礎研修会を終えて

田 中 新 二*

京都府立医科大学附属図書館

I. はじめに

日本医学図書館協会主催の第8回医学図書館員基礎研修会は、平成13年8月8日から10日にかけての3日間、京都府立医科大学医療技術短期大学の視聴覚室を会場として開催された。今回のテーマを、「医学図書館の過去・現在・未来；京都で学ぼう！」とした意図は、21世紀の幕開けの年に過去から現在を見直し（見据えて）医学図書館の将来につなげてさらなる発展に貢献できればとの考えでしたが、実際の結果は、参加者のみなさんどうでしたか。

受講者は、48名（協会36名、協会外12名）であった。夏の盛りの京都は、蒸し暑いとして敬遠されたのか、新たに図書館へ採用された方が少なかったのか、未経験の方が少なくベテランばかりになったのか、はたまた昨今の財政事情で参加

経費等の影響によるものなのか前回よりも少なく、協会財政の厳しい折に研修会の持ち方に検討を要するのではとの私見を申し上げたい。

II. 開催に至るまでの準備

平成13年は近畿地区での担当ということで、平成12年11月9日の近畿地区医学図書館協議会例会の席で開催当番校を依頼された。独断専行で引き受けることとし、その場で委員の選出をお願いし、実行委員会を組織した。

平成12年12月9日に1回目の委員会を開催し、以降、開催当日の実行委員会を含めて計6回の会議を開催して準備に当たった。少ない会議回数で準備できたのは、第7回実行委員長の多田氏から懇切丁寧な引継を受け大いに参考にさせていただいたお陰である。誌面をお借りして感謝申し上げます。

1. 開催時期・会場

教育大綱に沿って7～8月の3日間とし、会場

*Shinji TANAKA : 〒602-0857 京都市上京区広小路通河原町西入410.

lib01@koto.kpu-m.ac.jp

Tel.075-212-5400 Fax.075-212-5405

(2001年9月11日 受理)

として予定した本学医療技術短期大学部視聴覚室の使用状況や他の研修会の日程、京都の夏行事も考え併せて8月初旬とした。この時期は、祇園祭が終わり、お盆の行事である大文字の送り火(8/16)までの間で宿泊施設が確保しやすい時期である。

2. 参加資格

協会加盟館に限定せず広く参加を募ることとし、また、実務経験年数を問わないこと、部分参加も認めることとした。

3. 研修内容・プログラム

従来と同様に、①協会の活動、②講義(図書・雑誌・情報検索・相互貸借)、③講演を柱とした。

講義については、テーマを実行委員会で決め講師との打合会で内容についての調整を行った。

1 講義の時間を70分とし、そのうち10分程度を質疑応答に充てることにし、申込書に事前に記載された「研修会に期待すること」に各講義の中で回答できるよう講師に割り振りした。

グループ討議は行わないことにした。

講演については、医学図書館から少し離れた立場の講師を選定し、内容も過去については古医書関係を、現在はアナログからデジタルへとし、未来については近未来の大学図書館と情報リテラシーとし、周辺から医学図書館を見つめ直してもらうことを意図し、テーマに沿った講演を依頼した。

会場が京都御所の隣である地の利を考えて、京都御所内部の参観を見学場所としてプログラムに組み込んだ。宮内庁への申込は、参観希望日時の3カ月前から受け付けられるために5月の連休明けに参加人数を研修会定員の50名で申し込み、参観日1週間前までに男女別の参加人員を確認して訂正申込をした。

4. 講師

教育大綱の方針どおり、地区リーダーの養成が

この研修会の重要な目的であることから、担当地区内から講師を選定することを実行委員会で確認した。

第1回目の会議で研修会の骨子を決め、講師候補者の選定も行い、各委員が手分けして講師候補者にそれぞれ依頼した。

講演については、テーマに沿った講師候補者を実行委員会で選定し、各講師に依頼して承諾を得た。

5. 講師との打ち合わせ

第4回の実行委員会を5月に開催し、講師7名との合同の打合会とした。ここで研修内容の確認と意見交換を行い各講師の講義内容が重複しないように役割分担を話し合った。

6. 研修会テキストの作成

講義テキストについて一定の方針に基づいて作成し、2カ月後の7月10日までに提出を依頼した。各講師のご努力により期日に間に合うよう提出された原稿をそのまま版下として印刷し無線綴じの簡易製本とし、出来上がったテキストを各講師に事前に配布することができた。

情報検索を担当する講師から、協会発行の「図解PubMedの使い方」をテキストとして使用したいとの希望があり、協会出版委員会に研修会に間に合うように出版を要望したところ、期日に間に合わせていただきテキストとして使用した(出版委員に感謝、感謝)。

7. 広報活動

協会機関誌「医学図書館」の48巻1号に開催要項を、2号でも開催の案内を掲載した。

4月に協会中央事務局から加盟館に開催要項が配布された。

さらに、日本薬学図書館協議会や病院図書室研究会をはじめとした関係団体にも開催案内を送付したところ関係機関誌に掲載された。関係者の皆様にお礼申し上げます。

予定定員の申込があるかどうか不安であったが、最終的には予定定員数どおりとなった。

8. 協会出版物の販売

見本展示のみ行い、購入希望者は協会中央事務局へ直接申し込むこととした。

9. 直前準備

5回目の会議で、実行委員と会場要員の役割分担を再確認、研修会テキストの体裁、研修会当日に配布すべき資料の確認を行い、会議後から当日までに、確認された資料等の作成準備に当たった。

前日には、会場要員で設営と配付資料の準備を行った。

Ⅲ. 研修会当日の様子

1. 1日目（8月8日）

受付後受講者が指定の席に着席し、研修会が開会した。

最初に開会式・ガイダンス・受講者の自己紹介を行い、引き続き講義を開始した。

まずJMLA理事の茂幾周治氏（阪医）が「医学図書館とJMLA」というテーマでJMLAの歴史・現状などについて講義を行った。

午後からは図書業務に関連する二つの講義を行った。

最初は大河内恵美氏（和歌）が「図書の収集・受け入れ・蔵書構築」をテーマに、一貫した方針に基づく蔵書構築の必要性などについて講義した。

宮本高行氏（阪医）は、「図書の目録・分類作業」について目録法・分類法及び書誌データベースについて詳細な講義を行った。

今回の研修会では「医学図書館の過去・現在・未来」を大きなテーマに据え、3日間講師を招いて講演を実施した。

1日目は京都府の亀岡市文化資料館長黒川孝宏

氏に「アナログからデジタルへ」のテーマで語っていただいた。

巧みな話術で笑いを交え、和やかな中にも示唆に富んだお話に受講生の関心も高かった。

その後隣接する京都御所を東から西に横切って徒歩で懇親会場に移動し、懇親会が開催された。

京都南病院の同好会による琴の演奏を聴きながら、講師・受講者・実行委員一同和気あいあいと、アナログ的ネットワーク構築につとめた。

2. 2日目（8月9日）

午前は雑誌業務に関連する講義を行った。

河野富行氏（阪大）が雑誌業務全般の流れについて講義を行った。外国雑誌センター館の活動についてなど、講義後の質疑応答も活発に行われた。

ついで鈴木孝明氏（奈良）により電子ジャーナルについての講義が行われた。医学図書館員にとって関心の高いテーマが丁寧にわかりやすく解説された。

昼食後、希望者で京都御所の参観を行った。普段公開していない御所内の参観は事前に予約を取っていたが実行委員を含めて51名の参加があった。急な降雨などアクシデントもあったものの講義の合間の一服のリフレッシュとなった。

午後からは咲尾佳秀氏（阪市）が相互貸借について講義した。情報検索法や著作権の留意点など対象業務以外の受講生にも興味のもてる内容であった。

その後、はりきゅうミュージアム研究員・森ノ

宮医療学園専門学校非常勤講師の長野仁氏から古医書に関する講演を受けた。図書館利用者の立場からの内容でもあり、改めて利用者サービスについて思いを新たにしました。

3. 3日目(8月10日)

情報検索について講義を行った。

まず「情報検索1」として小田中徹也氏(近病図協)がPubMedについてその特徴、機能、使用方法などについて解説した。

続いて「情報検索2」で井上敏宏氏(京大)が医学中央雑誌の使い方についてCD-ROM版とWeb版の相違点などわかりやすく講義した。

3日間にわたった研修会の最後の講演として、同志社大学文学部教授大城善盛氏に「近未来の大学図書館と情報リテラシー」という題で図書館の未来を考察していただいた。

利用者に対する情報リテラシー教育の重要性とともに、図書館員自身のたゆまぬレベルアップの必要について考えさせられる講義であった。

講義終了後、閉会式を行った。修了者に修了証書を授与し、3日間にわたる研修会は滞りなく終了した。

IV. 研修会を終えての反省

受講者のアンケートで色々な意見が記述されていた。全体的な評価は5段階評価で5と4の評価が多く、概ね高い評価が得られたものと考えられ、

当番校として研修会をできたことに安堵しているところである。

1. 講師の人選

講義・講演とも概ね好評であった。ひとえに講師の努力の結果かと思う。一部関西弁でわかりにくいとか、早くて聞き取りにくいとかの指摘もあった。

2. 講義内容

全般に適切な内容で今後の業務に参考になったと評価されていた。一部には、わからなかったとの記述もあった。

全体的には、テーマに沿った内容であった。今後の課題として、講義ばかりでなく実習や共同討議、あるいは医学用語の説明等の内容も取り入れて欲しいとの指摘もあった。

3. 講演内容

研修会の教養的な内容とし、外から医学図書館を見ての内容で、今回のテーマ「過去・現在・未来」にあわせた講演をお願いし、それぞれ好評であった。あらためてこれらの講演について関心を持って見直してみたいとの記述があった。

4. 講義時間

今回の講義時間については、1講義70分とし、60分の講義と10分の質疑応答とした。

講義時間が長く途中で息が続かなくなったとか、質疑の時間をもっととって欲しいとか、受講者の関心事に寄ってまちまちであった。

時間の設定は、検討すべき事項である。

5. 研修会テキスト

テキストを当日に配布されて読みきれなかった、事前に配布されていれば予習ができ、講義もわかりやすかったのではとの指摘があった。

協会出版の「図解 PubMed の使い方」を配布したことは、経費がかかったが好評であった。

6. 会 場

会場の環境が良かったとのこと褒めをいただき感謝いたします。ただ、会場の冷房がききすぎたとのことで、こまめな温度管理ができずに申し訳なくお詫びいたします。

V. おわりに

今回の研修会では、研修生の皆さんや所属先の関係者、数多くの講師の方々、また講師の派遣にご配慮いただいた関係機関に対して感謝申し上げます。研修生の皆さんにはこれを機会に自己研鑽や研修会での人的ネットワークを利用して医学図書館の発展に貢献されることを願っています。

また、前回実行委員長の多田氏や協会中央事務局・教育研究担当理事等の多くの方々から助言をいただきお礼を申し上げます。

第8回医学図書館員基礎研修会 プログラム

第1日 8月8日(水)

- 9:30~10:00 受付
- 10:00~10:40 開会式・ガイダンス・参加者自己紹介
- 10:40~10:50 <休憩>
- 10:50~11:30 講義1: 医学図書館とJMLA
講師: 茂幾周治(大阪医科大学図書館)
- 11:30~12:40 <昼食>
- 12:40~13:50 講義2: 図書1(収書・受入, 蔵書構築)
講師: 大河内恵美(和歌山県立医科大学附属図書館)
- 13:50~14:00 <休憩>
- 14:00~15:10 講義3: 図書2(目録・分類作業)
講師: 宮本高行(大阪医科大学図書館)
- 15:10~15:20 <休憩>
- 15:20~16:50 講演1: 「アナログからデジタルへ」
講師: 黒川孝宏(亀岡市文化資料館長)
- 17:30~ 懇親会

第2日 8月9日(木)

- 9:00~9:30 受付
- 9:30~10:40 講義4: 雑誌1(雑誌業務の流れ)
講師: 河野富行(大阪大学附属図書館生命科学分館)
- 10:40~10:50 <休憩>
- 10:50~12:00 講義5: 雑誌2(電子ジャーナル)
講師: 鈴木孝明(奈良県立医科大学附属図書館)
- 12:00~12:50 <昼食>
- 13:00~14:00 京都御所参観(終了後集合写真撮影)
- 14:20~15:30 講義6: 相互貸借
講師: 咲尾佳秀(大阪市立大学学術情報総合センター医学分館)
- 15:30~15:40 <休憩>
- 15:40~17:10 講演2: 「古医書関係を中心に」
講師: 長野 仁(森ノ宮医療学園専門学校非常勤講師・鍼灸「鴻仁」開業)

第3日 8月10日(金)

- 9:00~9:30 受付
- 9:30~10:40 講義7: 情報検索1
講師: 小田中徹也(国立京都病院内書室)
- 10:40~10:50 <休憩>
- 10:50~12:00 講義8: 情報検索2
講師: 井上敏宏(京都大学医学図書館)
- 12:00~13:00 <昼食>
- 13:00~14:30 講演3: 「近未来の図書館と情報リテラシー」
講師: 大城善盛(同志社大学文学部教授)
- 14:30~15:10 まとめ・アンケート記入・修了証書授与・閉会式

実行委員会

- 藤井 明(大阪大学附属図書館生命科学分館)
- 杉本 節子(大阪市立大学学術情報総合センター医学分館)
- 茂幾 周治(大阪医科大学図書館)
- 青木 裕子((財)天理よろづ相談所病院医学図書館)
- 山室真知子(京都南病院図書室)
- 田中 新二(京都府立医科大学附属図書館)
- 宮本小夜子(京都府立医科大学附属図書館)
- 田中かず子(京都府立医科大学附属図書館)